



冬：薪ストーブの暖

自然の通風採光で夏は涼しく、陽だまりと薪ストーブで冬は暖かく、ガス・電気等の使用をできるだけ押さえる暮らしの工夫を目指している。

朝から昼そして夕べ・夜、また春夏秋冬の時の移ろいを肌で感じる、居住空間を計画することを旨としている。



夏：解放された中庭が風を呼び込む



南庭

初夏：青葉は境界を越えて連続する。



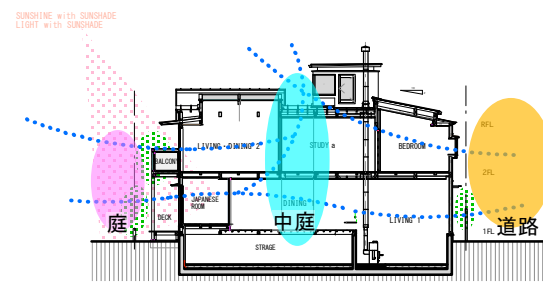
冬：生け垣に山茶花



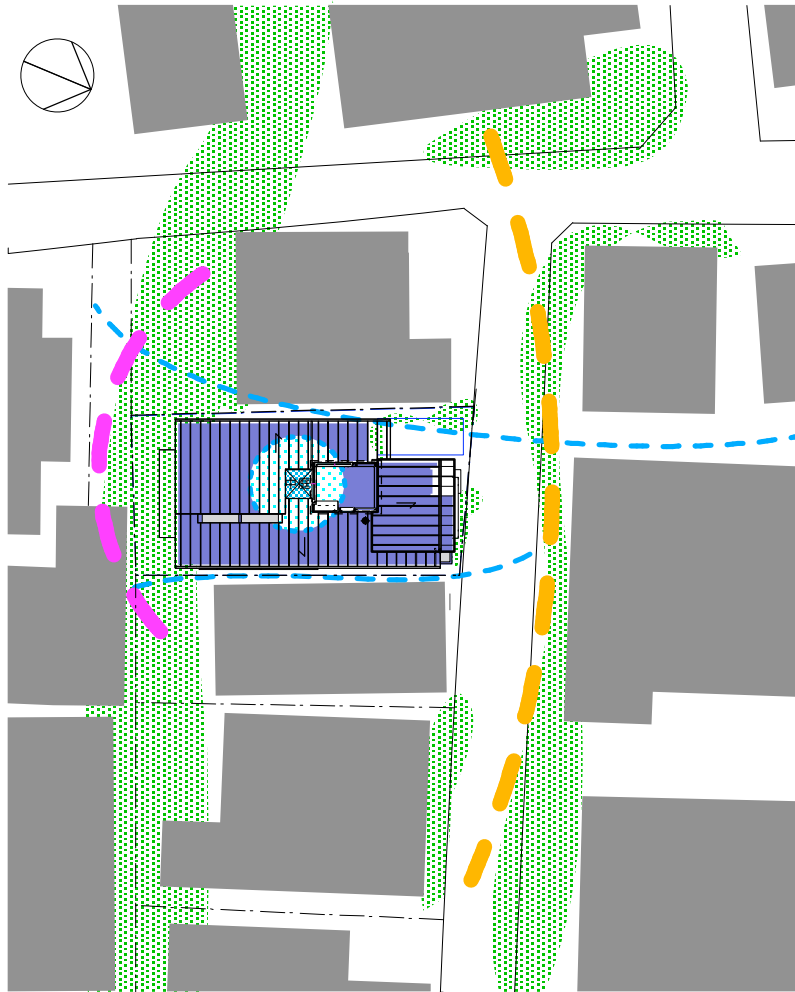
春：小さな南庭。生け垣とバラ。2階のデッキまで。



晩秋から冬：たわわに柚



外部空間A:南庭  
外部空間B:中庭  
外部空間C:道路  
外部空間D:風道



この住まいは周辺との間に、4つの性格の外部空間を持つ。

- A** 南側の庭は、近隣との自然環境としての共生だけでなく、実った果実や満開の花々を愛で分け合う垣根越しの関係を育てている。(柔らかな楽しさ)
- B** 中庭は小空間ながら、上下階の内部の連続性をつくり、全くの私空間として空との対話を楽しむ。(専有外部)
- C** 道路は交通動線としての空間の他、町内会の伝達、出会い、受け渡し会話する関係を近隣と結んでいる。(活気ある適度な交流・相互の見守り)
- D** 風道は、接近する隣家との細いなりに機能する緩衝空間であり、互いの視線を避けつつ、さわやかな通風と陽射しを与えている。(気配を察しながら)

## 建築作品部門

## 低炭素型社会の推進

建築物の低炭素化の推進、再生可能エネルギーの積極的活用

# 杉並の家

- 1.5世帯 終の住処 -

杉並区内、1戸建てが建込む周辺にある住まい。世代交代に伴う建替ゆえに近隣住環境と人間関係は、時をかけて育まれ程良い心理的距離間を保持している。それらを読み解き、狭小敷地の配置計画を練る。光や風の動きのみならず、隣家の開口部や気配も空間計画の大きな要素である。

外部空間は、戸建て住宅の境界を越えて連続し成立している。鳥も蝶も虫も渡って暮らしている。

内部空間は、夫婦世帯と単身世帯が共生と独立を快適に選択でき、また高齢期を長く在宅で過ごせるように計画した。

小さな中庭のもたらず風通しの良さ、下階で焚かれる薪ストーブの優しい暖かさ等、折々の四季に様々な表情を見せる住まいである。



応募代表者：板東みさ子

一級建築士事務所(有)アトリエピース

昭和48年 日本女子大学家政学部住居学科卒業

一級建築士事務所(株)第一工房 入社

平成9年 一級建築士事務所(株)第一工房 退社

平成10年 一級建築士事務所(有)アトリエピース設立

保育園・幼稚園・大学・集合住宅・個人住宅、どれを設計するのも計画の発想の起点は、同じである。その場の意味・成り立ち・人の行動との関係、空間の持つ味わい・連続性・展開等を、個別に或は総合してじっくりとスタディする。さらに素材感や色彩を含めデザインを詰め、形にする。到達点まで先は遠いが求め続ける。